

平成 22 年度 第 2 回市長タウンミーティング議事録

と き：平成 22 年 4 月 10 日(土)

午後 2 時～3 時 30 分

ところ：南公民館

参加者：64 人

○ 市長あいさつ

(市長より、平成 22 年度の施策・予算についての説明が行われました。)

○ 意見交換

質問(男性)

南町留守家庭児童指導室の入所希望者が増え、今回、南公民館の集会室を留守家庭児童指導室に整備することになりました。南町コミュニティ委員会や公民館利用者団体では、子どもたちのために協力することになりましたが、将来については、小学校の敷地内の方が安全面などからもよいという意見もありますので、学校の利用について市長の考えを教えてください。

回答(市長)

南町地区では二か所目の留守家庭児童指導室となりますが、南公民館に設置することにつきましては、コミュニティ委員会をはじめ、南公民館利用者の皆様のご理解、ご協力にたいへん感謝しています。蕨市にはたくさんの公共施設があり、その維持管理・保全が大きな課題となっていることから、新たに公共施設を新設することは難しく、今ある施設の有効活用を積極的に考えるべきであると思っています。そのなかで、学校の空き教室等についても、積極的に考えるべきと思っています。学校の利用については、現状では、管理上の問題や施設の改修など抱える課題も多くありますが、今後も引き続き検討をしていきたいと考えています。

質問(男性)

先日、新聞で水道管の耐震化について報道がありましたが、市内の現状を教えてください。

回答(市長)

震災対策、防災対策のなかで水道は、最も重要なライフラインの一つと考えています。

蕨市の給水開始は昭和 33 年と早かったため、古いタイプの水道管（石綿セメント管）が多く耐震化が遅れていましたが、平成に入ってから積極的に水道管の耐震化を進めており、新聞で報道されました主要水道管（基幹管路）の耐震化率につきましては平成 22 年 3 月現在で 80.9%となっております。また、浄水場の耐震化工事も進められ、塚越浄水場の耐震化工事が完了し、中央浄水場も昨年から工事をはじめ、今年度、完了する予定です。さらに、断水してもすぐに飲める、耐震性貯水槽を各地区に設置するなど、耐震化を進めています。

質問(女性)

蕨市は生活保護受給者が多くその費用がかかりすぎて、他の施策に影響があるのではないかとの話を聞きましたがどうなのでしょう。

回答(市長)

たいへんな不況のなかで、生活保護受給者が急増しています。平成 16 年と比べて、平成 22 年では約 1.5 倍(世帯数での比較)になっています。これは蕨市だけの問題ではなく、さいたま市では約 1.7 倍など、全国的に高い伸び率となっています。生活保護の制度は、生存権を保障する制度、いわゆるセーフティネットとよばれる、とてもたいせつな制度です。この制度は、国が法律などを決め、市町村が事務を行っているもので、保護すべき人はしっかりと保護して、働けるようになった人は生活保護をやめるといった、法律どおりきちっと運用していくことがたいせつだと思っています。また、この制度に係る費用は国が負担するしくみになっていますので、生活保護受給者が急増していることで、蕨市のほかの予算が使えなくなるようなことはありません。課題としては、市全体としては職員数を減らしているなか、受給者が増えると、それに伴い、相談などの業務を行う、ケースワーカーの数は増やす必要があり、その人件費は市が負担しています。今後も適正な運用を行っていきけるようしくみづくりを行っていきたいと思います。

質問(女性)

水道事業の退職金の支払いは問題だという話を聞きましたがどうなのでしょう。

回答(市長)

水道部の職員 3 人が定年退職を迎えたので、水道事業会計から退職金を支払うことに関して議会で否決されたという件ですが、退職金は、義務的経費といって支払わなければならないものです。この経費は、法律上、議会で否決されても、原案通り支出できる仕組みになっておりますし、本来、水道部職員の退職金を水道会計で支払うことは、なんら問題ない支払いです。以前は、水道管の耐震化が遅れたため水道料金だけでは耐震化の費用を賄うことが難しいため、蕨市が出資したり、水道部職員を退職間際に市部局に異動させ、退

職金を一般会計で負担したりした時期もありましたが、水道事業会計も黒字で安定していることなどから、平成 20 年度から通常どおり、水道部職員の退職金は水道事業会計で負担をしています。たいせつなことは、水道事業会計が安定していることであり、今回の退職金支払いで水道事業会計が不安定になったり、値上げが必要になったりすることはありません。

質問(男性)

昨年度、南公民館わきの公園に、カワヅザクラを植えていただきありがとうございました。南町には、桜の名所、南町桜並木があり、桜の咲く季節には近隣から多くのかたが見物にいらっしゃいます。この桜並木は昭和 30 年代に、地域の有志から集められた寄付により桜が植えられたもので、以来 50 年以上が経過して、桜の老朽化が懸念されています。新しい桜を補植していただくことはできないでしょうか。

回答(市長)

新しい桜を補植してほしいという声は以前から伺っており、専門のかたに現地調査を依頼した経緯があります。そのなかで、南町桜並木は、桜を植えられる範囲がせまく、根がはれるスペースに限りがあり、今ある桜を守るという意味でも、新しい桜の補植はやらないほうがいいとの話を受けています。今の桜並木に影響を与えないような方法で、良い方法はないか、引き続き研究していきます。

質問(男性)

戸田市にあるこどもの国のプラネタリウムを、園児や小学生などにもっと利用してもらってはどうか。

回答(市長)

今、スペースシャトルで宇宙に行っている日本人宇宙飛行士の山崎直子さんも、子どものころプラネタリウムで星を見ていたと報道されていましたが、やはり、子どもたちにとってプラネタリウムのような体験をすることはたいせつだと思っています。蕨市の小学校等で戸田市の施設を利用できるか分かりませんが、提案ということで受け止めます。また、留守家庭児童指導室では、年 1 回、遠足を行っていますので、その際、プラネタリウムなども利用していくといいのではと思います。

質問(女性)

南公民館でサタデイスタディ（通称、サタスタ）のボランティアをしています。サタスタは、安心安全な居場所づくりや基礎学力の向上、地域の皆さんとの交流などを目的とした事業で、当初は予算もあって、ボランティアも多かったが最近は少なくなっている

状況もあります。こうした事業は、子どもの居場所づくりとしてたいせつと考えていますので、事業が更に広がるようにしてほしいです。

回答(市長)

子どもの居場所づくりを行っていくことは本当にたいせつだと思います。また、地域の皆さんがボランティア活動で力を発揮していただいていることに心から感謝いたします。学校週休5日制になってから土曜日の過ごし方が重要になってきていると感じていますが、東京都などでは、土曜日に学校で各種事業を行う事例も増えてきていますので、さまざまな角度から研究をしていきたいと思います。

質問(女性)

所得に対して税金が高い印象があります。

回答(市長)

市・県民税は全国ほとんどの市で一律同じです。市の独自の施策で税金を高くしたり安くしたりすることはほとんどありません。一方、国民健康保険税は、市によって、税率が違いますが、蕨市は県内でも税率の低い市となっています。生活実感として厳しい、ということの1つの意見として受け止めさせていただきます。

発言(男性)

先ほど、サタスタの話が出ましたが、南公民館ではいもっこクラブとあって、毎年、下蕨にある農園をお借りして作物を育て収穫を行っています。こうした子どもたちの居場所をつくる活動もあることを紹介しておきます。

※ご質問いただきました内容に関して、担当課の確認など、その場でお答えできなかった内容を、加筆・修正して公開しています。